

対象	小学校高学年以上
教科	国語科
該当 単元	小学6年以上 我が国の言語文化
教科書	光村図書・東京書籍等
掲載日	2019.10.2. 朝刊南信版 11版

狂言 笑いと奥深さ



幅広い年代が体験会 平谷



① 狂言を披露する泉さん(左)と山本さん
 ② 笑い方の練習をする参加者ら＝いずれも9月21日、平谷村のひらひら平谷で(松尾憲暁さん提供)

日本の古典芸能「狂言」の魅力に触れるワークショップが、関西で活躍する和泉流狂言師の泉慎也さんと山本豪一さんを講師に迎え、平谷村のひらひら平谷(寿楽センター)で開かれた。

子どもから80代まで30人が参加し、泣き方や笑い方、歩き方など狂言の基本動作を体験。舞台では会場に響き渡る声量が求められるため、腹の底から声を出す発声や、軽く手を握って腰の横にそえて腰を落とす「構え」なども学んだ。

泉さんと山本さんは、家主が盗みに入った男を懲らしめる話の演目「盆山」などを披露。参加者は笑い声を上げながら狂言の世界を堪能した。

主催した村教委の中尾有岐さんは「幅広い世代に来ていただいて、楽しかったと言って帰ってくれた。できればもう一度開きたい」と話した。

(二神花帆)

問：ワークショップでは、どんなことを学んだのでしょうか。

- ・() —— 泣き方や笑い方、歩き方など
- ・()
- ・「構え」

発展1：日本の古典芸能には、狂言以外にどんなものがあるのでしょうか。

()

発展2：狂言にはおもしろいお話がいっぱいあります。図書館で本を探し、読んでみましょう。

【活用にあたって】

古文の授業では、何よりも古文に親しむ態度を育成することが大切です。暗唱し古文特有のリズムを感じ取ることも重要ですが、その古文がどんな内容価値を持っているのかがつかめなければ、古文への興味・関心は高まらないでしょう。

高める方法の一つとして、児童生徒向けに現代語で易しく書き換えられた本を読み、作品の内容の大体を知るといった活動があります。これを通して、時代・社会・言語・文化に変化はあっても、同じ国に住む人間として喜怒哀楽の情には大きな差異がないということを理解させたいと思います。生涯にわたって古文に親しむ態度を育成するには、何よりも古文を身近に感じさせることが大切です。

解答例

問：（狂言の）基本動作、発声

発展1：能、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語など

発展2：児童生徒向けの狂言集が出版されています。図書館で探すことで、他の古文に出合うことができるかもしれません。自分の気に入った狂言のお話を紹介し合うのもいいですね。